

2021 生誕100年  
開館25周年



# 利根山光人

Toneyama Kojin

第113号 2022年4月30日

## 記念美術館通信

Memorial Art Museum News Letter

〒024-0043 岩手県北上市立花15-153-2

TEL/FAX 0197-65-1808

### 生誕100年・開館25周年記念事業を終え、 令和4年度前期企画展開幕

#### 当館初公開作品 & 「アルテトネヤマ」 所蔵作品も多数展示

1980年代以降の利根山の代表的なテーマの一つは戦争シリーズである。これらモノクロの版画作品の制作と並行して制作されたのがドン・キホーテのシリーズであった。注目すべきはかなりシリアスで息のつまるような戦争シリーズの画面の中に、よく見るとドン・キホーテがごく目立たなく描かれているものがある。また、構図を同じくして連作のように描かれている作品もある。

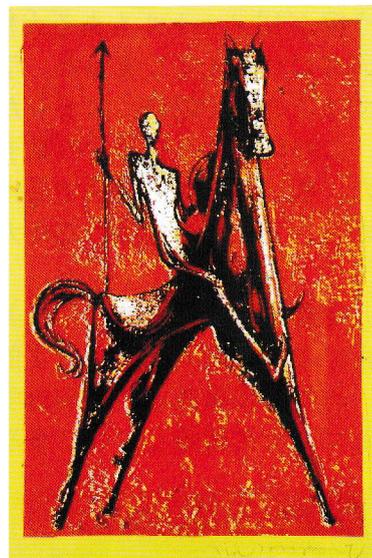
スペインのセルバンテスによるこの古典的名作「ドン・キホーテ」は、世にも奇想天外な物語として世界中に知られている。

騎士道物語にすっかり感動し、騎士道に身を捧げようと正義を求める遍歴の旅へと出発する主人公は狂気に陥った老人として描かれ、巻き起こす珍道中の物語である。こうした一見ユーモラスで愉快的な冒険譚を当時の風潮や時代背景から見て一つのパロディや社会風刺と見る識者もいる。

利根山が描くこの老騎士と家来サンチョ・パンサも、他のテーマの作品同様に線描が伸びやかで勢いがあり、画伯の変わらず快活な精神を見る思いがする。しかしどこか憂いに満ち、孤独をかみしめるような作品も見られる。立てる老騎士に「自画像」というタイトルがついているところからも主人公に自己を投影し、変わりゆく時代や情勢の中で一つの到達点に行き着いたような空気も見て取れる。これは利根山の絶筆とも言われる。一つのテーマを切り口に利根山画伯の新しい精神世界を探求したい。

所蔵作品から初公開作品を含めた「ドン・キホーテ」関連作品21点に加え、新設された一般社団法人「アルテトネヤマ」より借用した関連作品4点も展示する。生誕100年、開館25周年の記念事業を終えた再スタートの企画展にぜひ足を運んでいただきたい。

### 北上市所蔵利根山光人作品展 光人とドン・キホーテ



駿馬 (ドン・キホーテ)

2022年  
4月1日(金)~  
6月2日(木)

### 今年度の企画展

#### ●中期企画展「佐藤清美」展 6/4(土)~9/1(木)

令和2年度岩手県美術選奨受賞、新象作家協会会員。環境をテーマにしたアクリル画を継続して制作。校章・マークのデザイン、写真など幅広い創作活動で知られる。

#### ●後期企画展「阿部龍一」展 9/3(土)~11/30(水)

中学校美術教諭のかたわら、意欲的に創作活動に取り組む。独立美術協会準会員。利根山光人記念大賞展奨励賞受賞、他受賞歴多数。廃材や漂着物を使った制作で注目を集める。

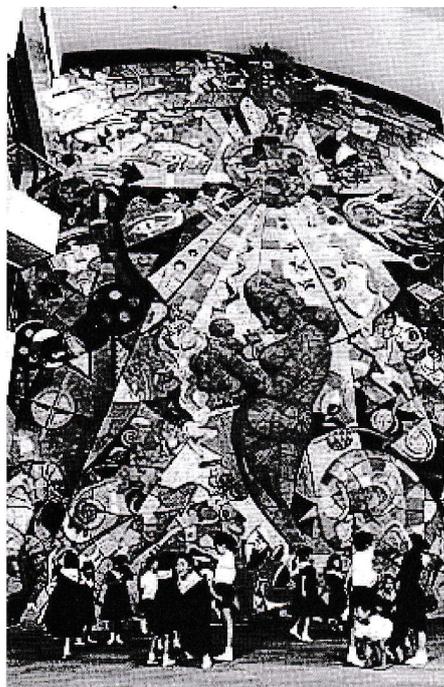
お2人の悩みはアトリエの棚にまだ残されている、いまだに額にはめ込まれていない画伯の作品をどう保存していくかということ。私は、管理環境としては聖徳大学での所蔵がベストではないかと思い勧めてみたが、近年では著名な画家や美術家の作品でさえも美術館が所蔵するのは難しくなっていると聞く。ご遺族が突き当たる共通した大きな悩みかも知れない。

ちなみに「屋根を破った生命の樹」という有名なエピソードがある。聖徳学園に設置する「生命の樹」という縦が16メートルもある大壁画を画伯は3年がかりで制作して、いざ壁に設置となった時、作品が大きすぎて天井につかえてしまった。学長の決断はウン千万もの費用をかけた建物の屋根の改修で、作品の上も下も切断することなく建物に収まったという。

この時の様子を長女の雅子さんに聞いてみたら、「収まらないことを知った父はそんなにショックではなかった、根っからの芸術家で芸術家特有のわがままなところがあり、落ち込んだという感じはなかった」というから、文化遺産保護のため大英断をした学長といい人間が大きい。私は別の意味でショックを受けた。

余談であるが、北上市に美術館設立当初、利根山作品を東京から2人でトラックを借りて運んだ私の同級生がいる。絵画の総額は計2億円ぐらいだったというからすごい仕事をしたものである。

当時、美術館はこの高台ではなく現在の駐車場の並びの平地に建築するという案もあった。アトリエを生かして高台に建築して今に至るわけだが、弥恵子夫人は「この美術館にはこれ以上絵を運べないね。」という話しをされていたという。同級生は「下に鉄筋で建設していればもっと作品を譲ってもらえてたかも…」とちょっと残念そうに笑っていた。



「生命の樹」1986年  
聖徳大学附属小学校ふれあい広場

等々力のアトリエは、以前はアルテ・トネヤマ音楽美術教室として運営されていたが、現在は画伯縁の美術家たちがスタジオとして活用し、時々展示会も開催しているらしい。

美術館建設当初は、利根山夫妻は頻繁に北上市を訪れていた。市長をはじめ地元の有志たちとの交流も盛んで、文化芸術をいかに北上市に根付かせ、発展させていくかについて熱く語り合ったという。直近では2016年の開館20周年記念式典で、ご夫人をはじめ親族の方々にも出席していただき、北上市と利根山家との絆を確認できた。

年を経るとこうした双方向の交流を維持することは難しくなることを感じるが、今回の私の訪問が、北上市と利根山家のつながりを少しは維持できたことになればうれしい。

弥恵子夫人がわざわざ面会に出向いてくれたことも、北上への思いがあったのかもしれない。

いずれまた近いうちに…今度はさらに自分なりのテーマを明確にして訪問し、「利根山を巡る旅」の報告を継続するため、じっくり取材してみたいものだと思う。(了)

専任研究員

●お知らせ

- ・北上市所蔵利根山光人作品特別展 5/7(土)～5/26(木) :いわて花巻空港
- ・絵画の修復作業見学会 5/29(日)午前10時30分～ :利根山光人記念美術館

●令和4年度利根山光人記念美術館専任研究員出勤曜日

まぐち ひとみ (日・月) さいとう しょうたろう (火・水) たかはし ひらみつ (金・土)

※木曜日は交代で勤務します。

※都合により変更する時がありますので、直接美術館へお問い合わせください。電話番号0197-65-1808